

はじめに

平成24年4月に安居小中併設校より「全校一体型教科センター方式」の学校として移転独立開校して8年目。福井市中学校教育研究協議会の研究校として、「社会参画型学力」を培うことを目指し、毎年公開研究会を開催しながら研究を続け、様々な成果を出してきました。

しかしながら、開校当時の教員は1人もいなくなったこと、生徒数が開校当時の約半数に激減したことで、同じ教育を施すことは難しくなってきました。また、折しも教員の「働き方改革」が叫ばれている現状があり、このような状況を、「前例踏襲」でなく今の目の前の生徒や教職員の実情に合致した教育課程を構築していくチャンスと捉えて、今年度いくつかの取組にチャレンジしました。

単に行事を減らすということではなく、「生徒が主役」とはどういうことか、学校教育の目的、教員の本分は何か、といったことを問い直し、そのために本校の「全校一体型教科センター方式」はどのように活用できるのか、ということについて全職員で議論と試行錯誤を繰り返してきました。生徒が失敗しないように、教員の引いた線路の上を辿らせるのではなく、生徒の願いや思いを大切に、総合的な学習の時間、特別活動、道徳をリンクさせながら、これまでの取組を「プロジェクト学習」として再編していくことや、「生徒が参加する公開研究会」等を実施しました。そして、それらの土台となるのが教科の授業であるという共通理解のもと、「生徒が主役」となる授業を常に目指し続けました。

昨今、業務改善として、研究紀要を作成しない学校が出てきていると聞きます。しかし本校は、各教員が実践を振り返り次の実践に繋げるために、1人1本の実践記録とプロジェクト等の記録を研究紀要にまとめることにしました。これは教員の力量形成に必要なことと考えます。令和元年度は、前例踏襲を脱却し、挑戦を始めた年度と捉えています。この研究紀要を手がかりに、今後の実践研究がより充実したものへと変革されていくことを願っています。

終わりにになりましたが、本校の実践研究に日ごろよりご教示・ご示唆をいただいている福井市教育委員会、福井市中学校教育研究協議会、福井大学連合教職大学院の諸先生方に、深く感謝申し上げます。今後とも本校の教育にご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

令和2年3月

福井市安居中学校長 牧田 秀 昭